

第3回 婦人科ロボット手術 若手ワークショップ 実施報告

周産・女性診療科 講師（キャリアアップ）

大島乃里子

オーダーメイド支援（2025年度）を活用し、第3回婦人科ロボット手術 若手ワークショップ（WS）を実施しました。

【開催日時・場所】

開催日時：2025年11月8日（土） 14:00～18:00

会場：インテュイティブサージカル合同会社 辰巳トレーニングセンター

【開催者】

主催：東京科学大学産婦人科ロボット手術ワーキンググループ（Science Tokyo-Robo）

【指導者】 da Vinci 術者資格保持者6名（学外講師4名、学内講師2名）

学外講師：高橋健太先生（旭中央病院 産婦人科）、高尾茉希先生（生殖機能協関係、大学院生）、伏木淳先生（がん研究会有明病院 婦人科）、近藤有紀先生（川崎幸病院、産婦人科）学内講師：郡悠介先生（周産・女性診療科 助教）、大島乃里子（周産・女性診療科 講師）

【参加者】

当大学関連施設若手医師（公募）

ベーシックコース3名、アドバンスコース6名

【内容】

ダビンチシステムシステム Xi、X、シミュレータ2台

【内容】

(1) 学習資料の配布、導入説明

(2) 実機実習

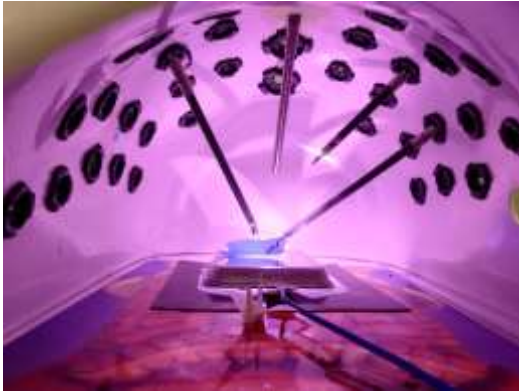
①ダビンチサージカルシステムのセッティング確認、ポートプレイスメントの確認、イ

ンストゥルメント概要（挿入、抜去、交換方法）の確認

②腔断端縫合モデル、指サックを用いた縫合実習

③鶏肉、みかんなどを使用した剥離実習

④折り紙をつかった精密操作実習



折り鶴トレーニングの様子

(3) シミュレータ実習

①基本動作（ベーシックコース）

スレッドザリング、スーチャースポンジ、スリーアームリレー、エナジースイッチング

②ヒステレクトミー（アドバンスコース）

(4) 動画上映（休憩中など）

「縫合」 吉野先生

「剥離」 高尾先生

「俺の技」 伏木先生

「da Vinci スタートアップ動画」 郡先生

「シミュレータを使ったヒステレクトミーのトレーニング」 近藤先生

「子宮全摘中にどんなことを考えているか解説動画」 高橋先生

(5) アンケート実施

終了後に記念写真の撮影を行い、WS 終了としました。



集合写真

本 WS について

【実施背景】

ロボット支援下婦人科手術を普及させ、その将来を担う若手を育成するためのプログラムを立案し、若手医師を対象として勉強会・研修会を行うことは社会的なニーズがあるだけでなく、若手医師にとってのニーズも満たし、重要な意義を持つと考えられる。同時に、現在、指導医のもと執刀を始めた医師、指導医としての立場に移りつつある中堅医師が、若手へ指導する機会を得ることにより、中堅医師のリーダーシップが育成され、指導医としてステップアップする機会を提供することも重要である。以上より、中堅医師を中心としたワーキンググループを結成し、若手医師が執刀することを目標とした若手向けワークショップを開催した。今回、第3回 WS 開催にあたり、若手向けの指導を行うと同時に、中堅医師がリーダーシップをとり、継続的に開催できるような態勢づくりを目標とした。

【対象】

ロボット手術の術者を目指したいと希望する当科関連施設の産婦人科医師。産婦人科 1~10 年目程度。

【指導者】

東京医科歯科大学産婦人科ロボット手術ワーキンググループ（Science Tokyo-Robo）委員

WS 実行委員長：高橋健太

WS 実行委員：高尾茉希、吉野育典、伏木淳、郡悠介、近藤有紀、大島乃里子

Science Tokyo-Robo 代表幹事：大島乃里子

【まとめ】

本 WS は、オーダーメイド支援を受けて全 3 回にわたり実施した。本年度をもって本形式での開催は終了する予定であり、次年度以降の継続的な開催体制については、実行委員会において具体的な検討を進めている。

本事業を通じて、2 名の参加者が術者として実際に執刀の機会を得た。また、中堅委員が主体的にプログラムの企画および運営を担い、若手への指導を行うことで、臨床現場における教育的役割を超え、施設の枠を越えたグループでのリーダーシップを発揮した。これにより、教育的人材の育成と地域連携の強化が同時に図られた。

以上の成果から、本ワークショップは当初設定した目的を十分に達成したと評価できる。今後は、得られた成果を基盤として、持続的かつ自立的な運営体制の構築を目指す予定である。